

「大学のあるまち」を創る

協定等

「パワーアップ協定締結(工学部)」(平成18年 1月17日) … 工業振興と産業の発展、人材育成を目的とした連携協定

「信州大学大学院「電気機器関連制御技術社会人スキルアップコースプログラム」の運営協力に関する覚書締結(工学部)」(平成28年11月1日)

「信州大学と飯田市との包括的連携に関する協定締結」(令和元年12月26日)

連携した取組

「人材育成」

…信州大学航空機システム共同研究講座等
教職員大学院南信州サテライトキャンパスの設置(飯田東中学校内)

「事業参画」

…伊那谷アグリイノベーション推進機構等

「共同研究」

…野生鳥獣被害対策、地域密着型教材開発等

「医療関係」

…医師派遣、飯田下伊那診療情報連携システム ism-link(医療情報共有)

「専門委員、講師、アドバイザー等」

…審議会有識者等

「地域連携」

…学輪IIDAへの参画

◎エス・バードに集約された機能の更なる強化

- ・信州大学航空機システム共同研究講座の継続的な支援
- ・信州フードスペシャリスト養成プログラムの新規開講支援
- ・国や公設研究機関(経産省・JAXAなど)との連携強化
- ・航空機システムの環境試験機器の整備と運用
- ・ランドスケープ・プランニング共同研究講座開講(予定)

「信州大学南信州キャンパス」
の実現を目指す

デジタル田園都市国家構想基本方針（令和4年6月7日閣議決定）

取組の背景

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大や構造的な問題等で疲弊した地方の豊かさを取り戻す。
- ・ デジタルは地方が抱える社会課題解決の鍵であり、新しい付加価値を生み出す源泉。
デジタルインフラを急速に整備し、官民双方で地方におけるDXを積極的に推進。

取組の前提

- ・ デジタル基盤が整備された都市のみを対象とするのではなく、むしろ、過疎化、高齢化の課題先進地である地方でこそ、デジタル技術を活用し社会課題の解決を図る。

取組の方向性

- ・ 地方大学を核とした産学官連携、オープンイノベーションの促進。
産学官協創都市 … 地域産業、若者雇用の創出や、地元企業や地方公共団体と連携した地方活性化につながる地方大学の取組みを促し、大学を核として地方活性化が図られる地域づくりを目指す。
- ・ 地方国立大学の限定的・特例的定員増等により、地方に魅力ある学びの場を作る。

デジタル人材等、地域や産業界の課題やニーズを踏まえた人材育成のための、限定的かつ特例的な地方国立大学定員増の対象となる大学選定を行う。

地域の生活

- ・ **地元とのつながりを持ち育った若者が、ここに暮らしながら大学進学が可能に**
地元での暮らしの中で、学校のふるさと学習や探求学習で培ってきた地域への気づき、課題意識、これらの思いを持つ若者がより多く地域に残り、暮らすことは、地域の未来への希望につながる

地域の経済

- ・ **全国から集まる学生や研究者がここで暮らすことによる、地域経済への好影響**
大学生や研究者が暮らし、活気にあふれるまちは、私たち地域住民にとっても暮らしやすいまち、大学生が来たい、住みたいと思えるまちを、大学の設置をきっかけにみんなで考え、創っていく

地域の産業

- ・ **産官学の連携による、DX時代に向けた地域に基盤を持つ様々な分野の産業振興**
- ・ **大学が養成するデジタル人材の能力を活用した、研究機関等の誘致や新産業育成**
企業、大学、行政が結びつき、地域全体でDXに取り組むことで当地の基盤産業が更に発展を遂げる最先端・最高峰の研究とそこで育つ人材が、この地域への引力となって、新たな産業が生まれる

地域の未来

- ・ **大学の持つ様々な機能と、当地域の学びの力（土壌）が連結し地方創生が実現**
外部の知見や最先端の知識技術を効果的に取り込み、時代や社会の変化に柔軟に対応できる地域、この学びの土壌と大学の機能が結びつくことにより、リニア時代の新たな価値の創造につながる

当地域への新学部設置が信州大学にもたらすメリット

新学部の立地

- ・ **リニア中央新幹線の開業による、首都圏、中京圏、関西圏とのアクセスの向上**
- ・ **三大都市圏に最も近い信州大学の学部（キャンパス）になる**
 - ・ 将来、長野県内で唯一のリニア中央新幹線の駅が設置されることが決まっている飯田下伊那地域、首都圏からだけでなく、中京圏、関西圏からの時間距離も大幅に短縮されて、来訪が容易になる
 - ・ リニア中央新幹線の開通により、日本全国から見ても来訪しやすい地域へ劇的に変化することで、通常は他の地域を拠点に研究を行っている研究者による、特別な講義や学会の開催が可能となる
- ・ **地域内には他の4年制の高等教育機関が無いため、新学部設置が県全体の均衡ある発展、国の求める地方創生に資する役割が高く期待される**

新学部の研究

- ・ **リニア中央新幹線沿いに設置が見込まれる、高速通信線を活用した研究が可能**
デジタル人材を育成するとされる新学部にとって、大容量データを扱える通信のインフラは必須
- ・ **基盤産業であるものづくり（ハード）とDX（ソフト）が結びついた研究の発展**
当地域の基幹産業である製造業等と情報系学部の連携により、研究成果の実証化が当地域内で可能
- ・ **都市域から山間地まで、多様性のあるフィールドでの実践的なDX研究の推進**
全国の様々な地域に対応する、地域社会におけるデジタル技術の活用モデルの研究・構築が可能

【ナレッジ・リンク】メガリージョン内外で、知の創発拠点をつないで、活力ある知の集積をもたらす

